

平成25年度
国公立大学附属病院医療安全セミナー
日 時: 5月9日(木) 10:10～10:40
場 所: 日経ホール(東京都千代田区)

医療人養成のための取り組み

●
高等教育局医学教育課



本日の内容

1. 医療人養成の現状と課題
2. 地域の医師確保対策2012
3. 平成25年度 国公立大学関係予算

1. 医療人養成の現状と課題

2

医学教育改善・充実の方向性

- 基本的な診療能力の確実な習得とそれらの評価
- 各大学の設立の理念や特色に応じた診療参加型臨床実習の充実
- 国際的な質保証の要請への対応
- 地域で求められる医療人材の養成（総合的な診療能力の養成、院外実習など地域と連携した医学教育）
- 研究医養成のための教育プログラムの充実

3

医学・歯学教育に係るカリキュラムの改善に向けて
 ～「医学教育カリキュラム検討会」及び「歯学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議」
 における検討結果を受けて～

1. これまでの取組

- 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の策定
 → 学生が卒業までに最低限履修すべき教育内容をまとめた医学・歯学教育の指針
 (H13.3策定、H19.12一部改訂)
- 共用試験の実施 (C B T (知識)、O S C E (技能))
 (実施主体：(社)医療系大学間共用試験実施評価機構)
 → 学生が臨床実習開始前に備えるべき能力を測定する共通の標準的評価試験
 (H14.4～試行、H17.4～正式実施)

2. 今後の取組

(1) 検討内容

- 医学教育カリキュラム検討会 (H21.2～)
 「臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善について」(H21.5)

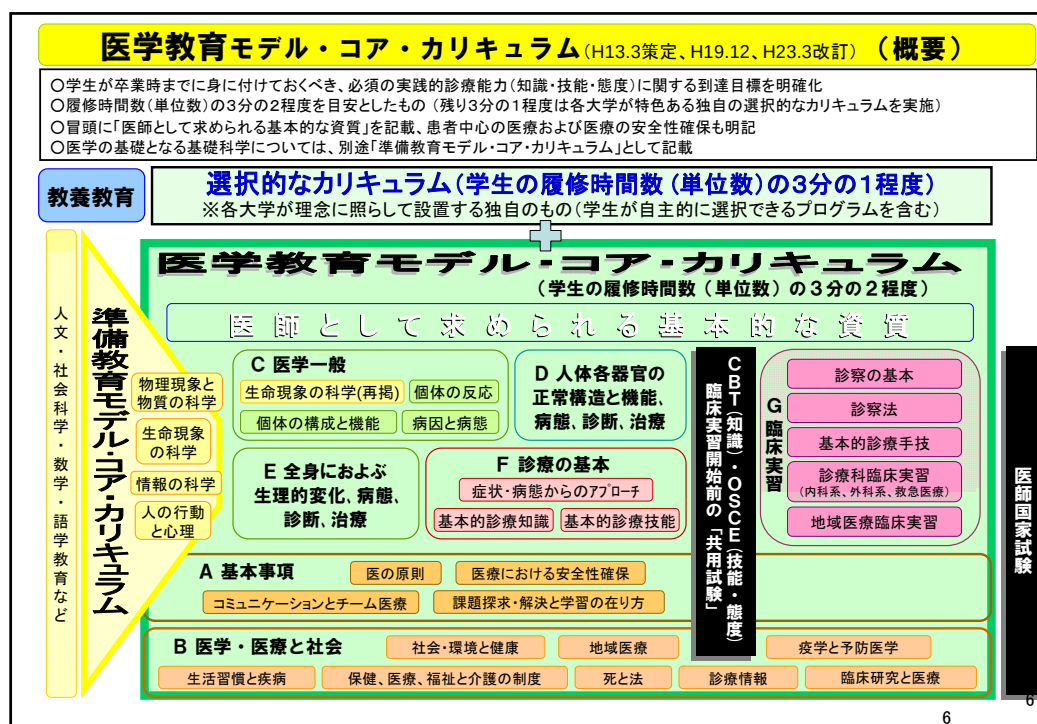
(今後検討すべき事項)

- ①臨床実習の系統的・体系的な充実 ②地域の医療を担う意欲・使命感の向上
- ③研究マインドの涵養 ④臨床実習等に係る評価システムの確立 等



医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に反映

医師養成の改善・充実の方向性		
課題 (H23.12全国医学部長病院長会議グランドデザインより)	文部科学省等における取組	効果・達成目標
卒業前の課題	①国立大学医学部のミッションの再定義(H24年度)	・優れた入学者の確保 ・社会の期待に応える優れた医師の養成 ・真の診療参加型臨床実習の実施(時間数、内容とも) ・大学自らの能力評価を通じた医師国家試験の合理化
	②地域枠出身医師等の進路調査(全国地域医療教育協議会にて検討中)への協力	
	③医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂(H23.3)	
	④全国医学部長病院長会議における「スチューデントドクター制」の検討(H25.4導入予定)	
卒業後の課題	⑤「診療参加型臨床実習の充実に向けての提言」をとりまとめ(H24.3 先導的大学改革推進委託事業)	・卒前実習の充実による基本診療能力向上に基づく初期臨床研修の合理化 ・高度医療を担う専門医療人の養成 ・イノベーション創出を担う基礎研究医、臨床研究医の養成
	⑥「グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」事業(H24年度～)	
	⑦「大学病院間の相互連携による優れた専門医の養成」事業(H20～24年度)	
	⑧「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業(H24年度～)	
卒業後にまたがる課題	⑨「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」事業(H24年度～)	・大学と地域医療機関等の連携による優れた総合診療医等の養成 ・世界基準の医学教育評価システムの構築 ・地域の医療ニーズに対応した人材養成による、医師の地域偏在、診療科偏在の解消への貢献 ・チーム医療・役割分担の推進や女性医師の活躍支援等による医師全体の過重労働の軽減
	⑩「超高齢社会及びメディカル・イノベーションに対応した医療人養成事業」(H25年度概算要求事項)	
	⑪「周産期医療に関わる専門的スタッフの養成」事業(H21年度～)	
	⑫「医学・歯学教育の認証制度の実施」事業(H24年度～)	
	⑬「医学部入学定員の増員」(H20年度～)	
	⑭「定員増に伴う教育環境の整備に対する支援」(H20～)	
	⑮「大学病院における医療支援人材確保事業」(医師事務作業補助者、地域・へき地医療支援人材の雇用等)(H21年度～)	
	⑯「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの構築」事業(H23年度～)	
1. 入学者選抜 ・各大学のミッションの再設定、アドミッションポリシー等の公表 ・地域枠の効果の検証 等		
2. 臨床実習前教育 ・人間教育、リサーチマインド形成等のための教育充実 ・共用試験合格者を「資格」として認定 等		
3. 臨床実習 ・診療参加型臨床実習の充実、Advanced OSCEの導入 ・地域基盤型教育の導入による多様な疾患等の学習等		
4. 医師国家試験の改革 ・知識偏重試験のため、6年次後半が予備校化 等		
5. 初期臨床研修 ・卒前教育と卒後研修の到達目標の精査 ・医学研究者(特に基礎)を養成する視点の欠如 等		
6. 高度専門医療人の養成 ・大学をローテーションするプログラムの構築 等		
7. 医学研究の振興と大学院の充実 ・MD研究者養成プログラムの構築、指導体制の確立等		
8. 生涯教育 ・学部教育、卒後を一貫した医師養成プログラムの提供		
9. 総合診療及び救急医療の教育充実 ・総合診療部門の充実 ・救急医療、産科、小児科等の活力向上 等		
10. 医学教育の分野別認証 ・卒前医学教育に特化した評価システムの構築 等		
11. キャリア・ディベロップメント等 ・キャリア教育の構築、医師全体の過重労働の軽減 等		
12. 教育環境の整備 ・定員増に見合う教員と設備の充実 等		
13. 医師の地域偏在と診療科偏在の解消 ・増員した定員の維持 ・地域単位で医師の養成を図る仕組みの構築 等		



- 平成22年度医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂のポイント**
- ① **基本的診療能力の確実な習得**
 臨床実習終了時までには到達すべき総合的な診療能力の基礎としての、知識、技能、態度に関する目標を明確化。
 - ② **地域の医療を担う意欲・使命感の向上**
 地域医療に関して、入学時から段階的・有機的に関連づけて実施することに効果的に体験を蓄積していくことが必要であることを記載。
 - ③ **基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養**
 「A 基本事項」に「医学研究への志向の涵養」に係る項目を新設。
 - ④ **社会的ニーズへの対応**
 医療安全(患者および医療従事者の安全性確保)の観点、患者中心のチーム医療(医療分野における多職種連携)の観点
 その他(少子高齢化、男女共同参画の促進)へ対応する観点から、記載を充実。
 - ⑤ **大学、学会等へ期待する事項**
 - ・卒前の研究室配属などの学生時代から医学研究への志向を涵養する教育や、医療関係者以外の方の声を聴くなどの授業方法の工夫など、各大学における特色ある取組の実施。
 - ・より効果的な医学教育方法の確立に向けた、学会等における具体的教育手法や教材開発。
 - ・基本的臨床能力の習得のため、各大学・大学病院が、臨床実習に参加する学生の適性と質を保証し、患者の安全とプライバシー保護に十分配慮した上で、診療参加型臨床実習の一層の充実。
- 7

医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂後の次のステップ

○医学教育は、診療参加型臨床実習の充実を進めていく方向

1. 医師国家試験においても、臨床実習の成果を測る方向での改善が一層促進されることを期待。
2. 臨床研修をより充実していくためにも、臨床研修と臨床実習との連続性を重視していくことが重要。
3. 臨床研修修了後の医師のキャリア形成を支援していくためにも、臨床研修病院、地域の医療関係者、行政と大学との積極的な連携を期待。

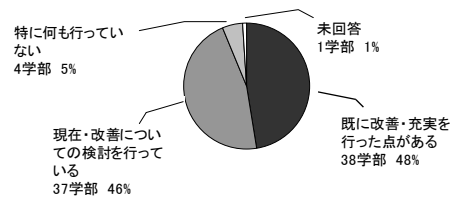
8

平成24年度 診療参加型臨床実習の充実の状況

◆昨年度からの改善の状況

昨年度の状況と比較して、**9割以上の大学が診療参加型臨床実習の内容についての改善・充実を実施または検討中。**

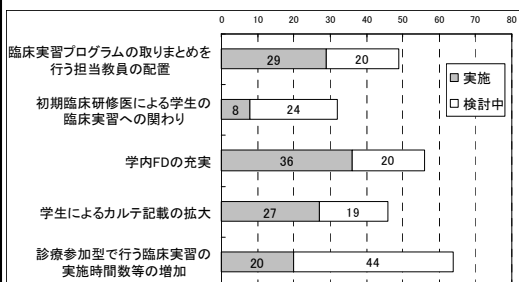
診療参加型臨床実習の昨年度からの改善状況 (医学)



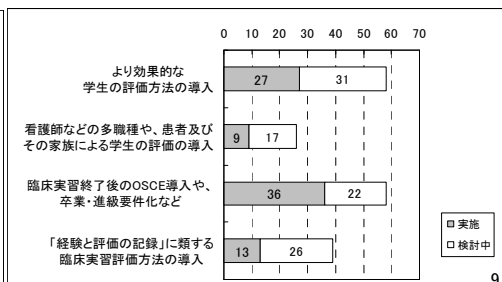
◆改善の状況

具体的には、診療参加型で行う実習時間数の増加のほか、学内FDの充実や、臨床実習プログラム担当者の配置などの改善や、臨床実習後のOSCEの導入・活用などに取り組んでいる大学が多い。

【教育内容・方法に関する改善】



【評価に関する改善】



9

文部科学省「平成24年度医学・歯学教育指導者ワークショップ」参加者アンケートより

診療参加型臨床実習の充実に向けての取組

- 平成23年度 文部科学省 先導的大学改革推進委託事業(医学チーム
代表者:北村 聖教授(東京大学))において、以下の調査研究を行い、
その成果を各大学医学部に提示。

▽ 診療参加型臨床実習の充実に向けての提言

- ①「地域医療臨床実習」の学習内容の新設(モデル・コア・カリキュラム改訂)
- ②患者の理解と同意を得るための取組(学生の診療技能の修得に関する証明書の発行など)
- ③侵襲的医行為等に関するプロセス(診療技能の確保、患者への説明と同意等)の徹底
- ④個人情報に関する学習や指導の徹底
- ⑤全学的な実施体制(診療科横断的な体制、統括責任者・実習委員会の設置など)
- ⑥学外の医療機関での実習の推進(臨床教授の活用など)
- ⑦実習終了時、卒業時の評価・指導の充実(到達目標等の明確化、advanced OSCEの実施など)

▽ 診療参加型臨床実習等における経験と評価の記録(例示)

▽ DVD映像で見る診療参加型臨床実習とは ほか

→ 診療参加型臨床実習の一つのモデルの開発や、評価手法の開発により、臨床実習の充実を推進。

○ 平成24年度も引き続き臨床実習の充実を促進

本年度は、高齢社会に対応した医学教育の在り方に関しての調査研究を実施する予定。

10

国際的な質保証への対応 米国ECFMGからの通告

今後、世界で活躍できる医師養成のためには、我が国の医学教育が、国際標準を満たしているという評価を受ける必要が出ている。

◆米国ECFMGからの通告

2023 (H35) 年より、米国の医師国家試験については、アメリカ医科大学協会(AAMC)、または世界医学教育連盟(WFME:WHOの下部組織)の基準により認証を受けた医学部卒業生以外の受験を認めない旨を高等教育評価機構など日本の複数の認証評価機関に通知(2010年9月)。

※ ECFMG(Educational Commission for Foreign Medical Graduates)

米国外の医学部卒業生に対して、米国医師国家試験(USMLE STEP1,STEP2)の受験資格を審査するNGO団体

※ WFME global standard

WFMEはWHO関連機関である医学教育NGO。
2003年に医科大学評価基準としてグローバルスタンダードを策定。

○受験者数の推移

YEAR	Japanese Citizens*	Graduates of Japanese Medical Schools
2000	30	31
2001	37	37
2002	33	30
2003	68	65
2004	36	35
2005	81	83
2006	78	76
2007	66	67
2008	55	56
2009	72	68
2010	69	63

◆グローバルスタンダードで認証された日本の医学部はない。かつ日本では医学の分野別評価はまだ導入されていない。

◆認証制度発足に向けて、全国医学部病院長会議がH23.9に「医学部・医科大学の教育評価に関わる検討会」を設置

11

大学改革推進等補助金「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業①

事業の目的

日本の医学部・歯学部が国際標準の教育を実施していることを証明するとともに、国際標準を超えるグローバルかつ優れた医師・歯科医師を養成するため、日本における国際標準の医学・歯学教育認証制度等の基盤を構築することを目的として実施（H24～28予定）。

選定大学

分野	大学名	連携大学	プログラム名称
医学	東京医科歯科大学	千葉大学 東京大学 新潟大学 東京慈恵会医科大学 東京女子医科大学	国際基準に対応した医学教育認証制度の確立
歯学	東京医科歯科大学	新潟大学 九州歯科大学 東京歯科大学 大阪歯科大学	歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究

12

大学改革推進等補助金「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業②

24年度の主な取組状況（医学）

H24.7

世界医学教育連盟(WFME)グローバルスタンダード準拠
医学教育分野別評価基準日本版作成(日本医学教育学会)

H24.10.29～11.2

東京女子医科大学グローバルスタンダードによる国際外部評価

H24.11.29

第1回医学教育の質保証検討委員会開催(全国医学部長病院長会議)

- ①認証GP進捗状況報告 ②東京女子医大外部評価報告
- ③台湾、韓国認証制度報告
- ④今後の方針、日本医学教育認証評議会(JACME)設立について

H25.2.22

公開シンポジウム「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」開催

13

地域で求められる医療人材の養成① 総合的な診療能力

- ・地域医療において、総合的な診療能力を持つ医師(総合医)の必要性を指摘する声が上がっている。
- ・半数程度の大学が、プライマリ・ケアについて独立した科目として授業を実施。

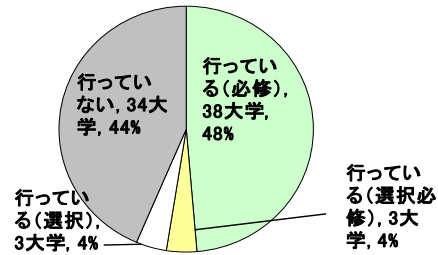
◆地方公共団体からの要望の例

要望者	要望内容・事項
北海道東北地方知事会	総合医の制度化及び養成
茨城県	地域の中核病院では、内科一般、小児科、救急等にわたる総合的な診療能力を有する医師が求められていることから、このような医師の育成と病院への配置について、具体的な方策を講じること
愛知県議会	総合医の制度化・育成
兵庫県	大学医学部へき地医療分野における総合診療への支援及び医学部学生へのへき地実習の奨励
島根県	地域医療に求められている、総合的に患者を診る能力を養成するため、教育体制の強化を図ること
愛媛県	国立大学等医学部において総合医を育成するための一貫した教育プログラムを導入すること
宮崎県議会	「総合医」の育成

※平成21年4月～24年6月30日までの間に文部科学省に対して要望書等があったものを整理

◆大学における教育

○独立した科目としてプライマリ・ケアについて授業行っているか



※プライマリ・ケア:

専門とする分野にかかわらず、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できること

「平成23年度医学教育カリキュラムの現状」
(全国医学部長病院長会議)より

14

地域で求められる医療人材の養成② 大学と地域医療機関との連携

地域の病院内に大学の教育拠点(センター)を置くことにより、学生・研修医の臨床教育の充実と、地域医療支援の両立を図る取組が行われている。

筑波大学 水戸地域医療教育センター ～大学と民間病院の連携～

- ・民間病院である水戸共同病院(JA茨城県厚生連)内に大学のサテライトキャンパスを設置。
- ・同大学の教員(常勤医)21名を置き、病院と連携して地域医療に従事。
- ・大学病院だけでは難しい、総合診療や1次2次救急など、医学生・研修医の実践的な教育を行い、幅広い総合的な診療能力を持つ医師養成(イチロー型総合診療医)を目指す。(H21開設～)



東近江総合医療センター 地域医療再生計画モデル
(イメージ図)

滋賀医科大学+国立病院機構滋賀病院 ～大学と国立病院、県の連携～

- ・国立病院機構滋賀病院に新設される東近江総合医療センター(仮称)内に、大学の総合内科学講座と総合外科学講座を設置。
(滋賀県による寄附講座)
- ・大学から同病院への教員(医師)の派遣により、地域医療の再生と学生の臨床教育の充実の両方をねらいとしている。(H25開設予定)

15

歯学・看護・薬学教育の改善・充実

16

歯学教育モデル・コア・カリキュラム (H13.3策定、H19.12、H23.3一部改訂) (概要)

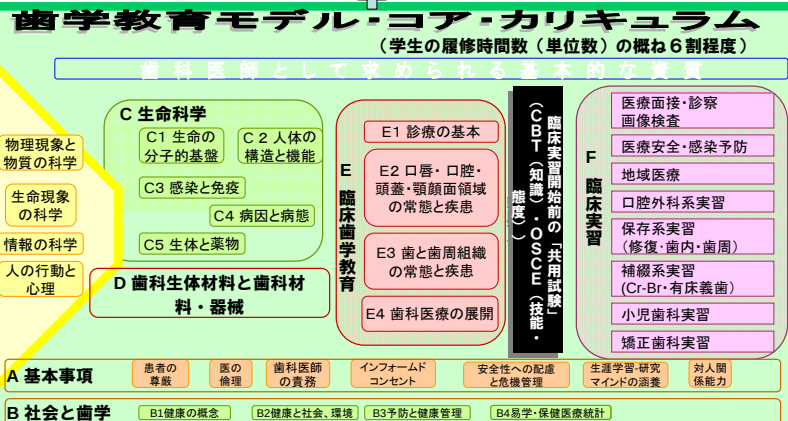
- 全ての歯学部学生が卒業時までに通して修得すべき必須の基本となる教育内容(一般目標)と到達目標を明記
- 学生の履修時間数(単位数)の概ね6割程度を目安としたもの(残り4割程度には各大学が特色ある選択制カリキュラムを実施)
- 冒頭に「歯科医師として求められる基本的な資質」を記載、患者中心の医療および医療の安全性確保も明記
- 歯学の基礎となる基礎科学については、別途「準備教育モデル・コア・カリキュラム」として記載

教養教育

選択的なカリキュラム(学生の履修時間数(単位数)の概ね4割程度)
※各大学が理念に照らして設置する独自のもの(学生が自主的に選択できるプログラムを含む)

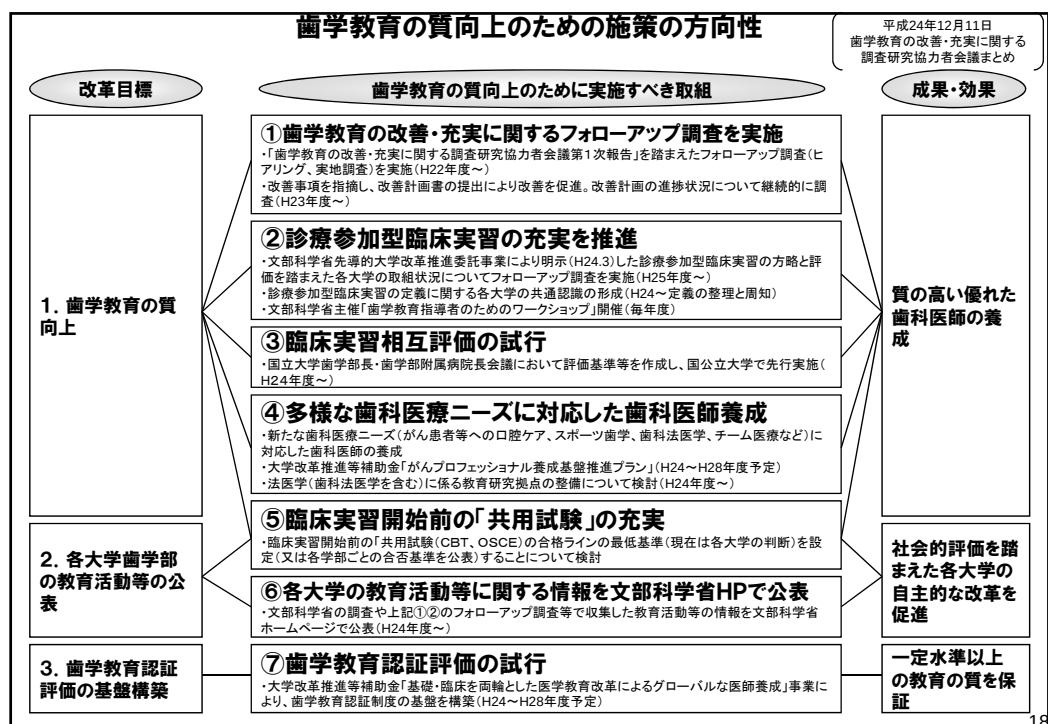
数学・生物学・化学・物理学・語学教育など

準備教育モデル・コア・カリキュラム

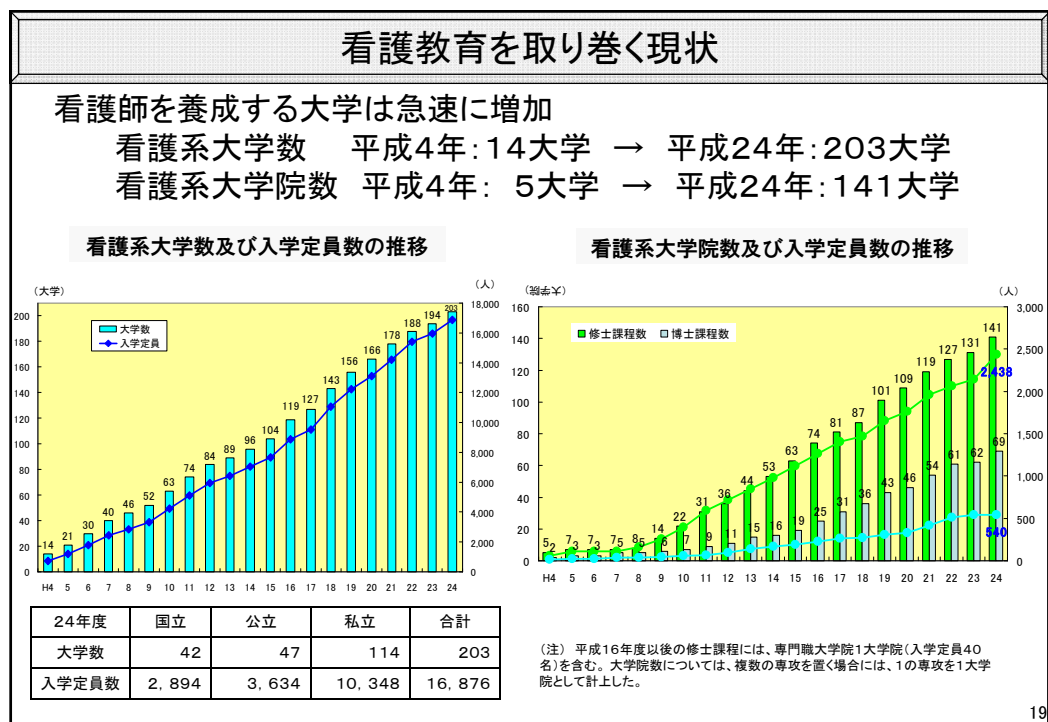


歯科医師国家試験

17



18



19

平成25年 国家試験合格状況

職種	合格者 (総数)	合格者 (新卒)	大卒合格者 (総数) (全体に占める大卒者の割合)	大卒合格者 (新卒者) (全体に占める大卒者の割合)
看護師 (101回)	50,224 【48,400】	48,413 【46,928】	13,913 (29.7%) 【13,042 (26.9%)】	13,640 (29.9%) 【12,867 (27.4%)】
保健師 (98回)	15,764 【13,555】	14,751 【12,963】	14,748 (93.6%) 【12,780 (94.3%)】	13,850 (87.9%) 【12,224 (94.3%)】
助産師 (95回)	2,072 【2,026】	1,987 【1,982】	658 (31.8%) 【643 (31.7%)】	629 (31.7%) 【630 (31.8%)】

※【】は平成24年の合格者数

(注)助産師の大卒合格者数には、大学院・大学専攻科卒者を含めていない。

20

看護教育の課題と対応

◆看護系大学の急増、医療の高度化、医療・看護ニーズの変化・拡大

大学における看護教育の課題

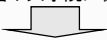
- 学士課程で学生が身につけるべき学習成果の明確化が求められている。
- 社会環境の変化により、実習内容が制限されている。



今後の看護系大学の人材養成の在り方を明確にし、教育の質を保証する必要性

大学院における看護教育の課題

- 養成する人材像や習得すべき能力の明確化が不十分
- 社会人受け入れ体制の整備等による教員の負担増や大学院に在学中の教員が多いなど、教員の質的、量的充実が課題



教育研究者養成の充実、高度専門職業人養成の質保証を推進する必要性



平成21年3月に4年制大学における看護学教育の充実強化を図ることを目的に文部科学省に「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」を設置。平成23年3月に検討会最終報告をとりまとめ。

【主な内容】

- ①実習施設の確保が困難となっている現状を踏まえ、従来より大学では看護師養成と併せて行ってきた保健師養成を、各大学が自身の教育理念・目標や社会のニーズに基づき、選択可能とする
- ②学士課程修了時に看護専門職者として修得すべきコアとなる能力とそのために必要な教育内容を示した「学士課程においてコアとなる看護実践応力と卒業時到達目標」を策定

21

薬学系人材養成の在り方に関する検討会について

1. 検討会の目的

薬学系大学の人材養成の在り方に関する専門的事項について検討を行い、必要に応じて報告をとりまとめる。

3. 開催状況

第1回(21年2月13日)

○自由討論

第3回(21年3月10日)

薬学系大学院の在り方に関する

論点整理(意見のとりまとめ)

第5回(21年10月16日)

○自由討論

第7回(23年5月10日)

○大学(学部)教育の在り方等について

○薬学教育モデル・コア

カリキュラムの見直しについて

第9回(23年6月27日)

○4年制博士課程教育の

基本的考え方について

○質の高い入学者の確保について

第11回(24年3月19日)

○質の高い入学者の確保について

○今後の薬学教育モデル・コアカリ

キュラムの在り方について

第2回(21年2月26日)

ヒアリング

第4回(21年3月23日)

○第一次報告(案)

第6回(22年3月1日)

○日本学術会議薬学委員会の

報告

○基礎データ等について

第8回(23年6月10日)

○4年制博士課程教育の基本的

考え方について

○質の高い入学者の確保について

第10回(23年12月13日)

○新制度の『大学院4年制博士課程』

における研究・教育などの状況に

関する自己点検・評価について

○質の高い入学者の確保について

○今後の薬学教育モデル・コアカリ

キュラムの在り方について

第12回(24年11月8日)

○質の高い入学者の確保について

○4年制博士課程のフォローについて

○今後の薬学教育モデル・コアカリ

キュラムの在り方について

○医療人養成としての薬学教育の

在り方について

2. 検討事項(課題)

- (1) 今後の社会的要請を踏まえた薬学教育の在り方について
- (2) 薬学教育における臨床教育の充実と評価の在り方について
- (3) 生命科学の進展を踏まえた研究開発等薬学系研究者養成の在り方について

4. 委員

※◎座長、○副座長

○市川 厚(武庫川女子大学薬学部長)

○井上 圭三(帝京大学副学長)

生出泉太郎(公益社団法人日本薬剤師会副会長)

太田 茂(広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授)

北澤 京子(日経BP社 日経メディカル編集委員)

北田 光一(一般社団法人日本病院薬剤師会会長)

倉田 雅子(納得して医療を選ぶ会事務局長)

高柳 元明(東北薬科大学理事長・学長)

竹中 登一(財団法人ヒューマンヘルスケア振興財団会長)

永井 博弼(岐阜保健短期大学学長)

◎永井 良三(自治医科大学学長)

長野 哲雄(東京大学大学院薬学系研究科教授)

橋田 充(京都大学大学院薬学研究科教授)

平井みどり(神戸大学医学部附属病院薬剤部長・教授)

正木 治恵(千葉大学大学院看護学研究科長)

村上 雅義(公益財団法人先端医療振興財団常務理事)

望月 正隆(東京理科大学薬学部教授)

望月 真弓(慶応義塾大学薬学部教授)

22

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた考え

— 基本的な資質に基づいたコアカリキュラムの改訂 —

薬剤師として求められる基本的な資質(案)

- ① 薬剤師としての心構え
- ② 患者・生活者本位の視点
- ③ コミュニケーション能力
- ④ チーム医療への参画
- ⑤ 基礎的な科学力
- ⑥ 薬物療法における実践的能力
- ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力
- ⑧ 研究能力
- ⑨ 自己研鑽
- ⑩ 教育能力

薬学教育と実務実習モデル・コアカリキュラムの一本化

薬学教育モデル・コアカリキュラムの大項目

- | | | |
|----------|---------------|----------|
| A 基本事項 | C 薬学基礎教育 | F 薬学臨床教育 |
| B 導入教育 | D 衛生薬学・社会薬学教育 | G 薬学研究 |
| E 医療薬学教育 | | |

薬学教育モデル・コアカリキュラムの中項目

GIO

SBO
s
.....

GIO

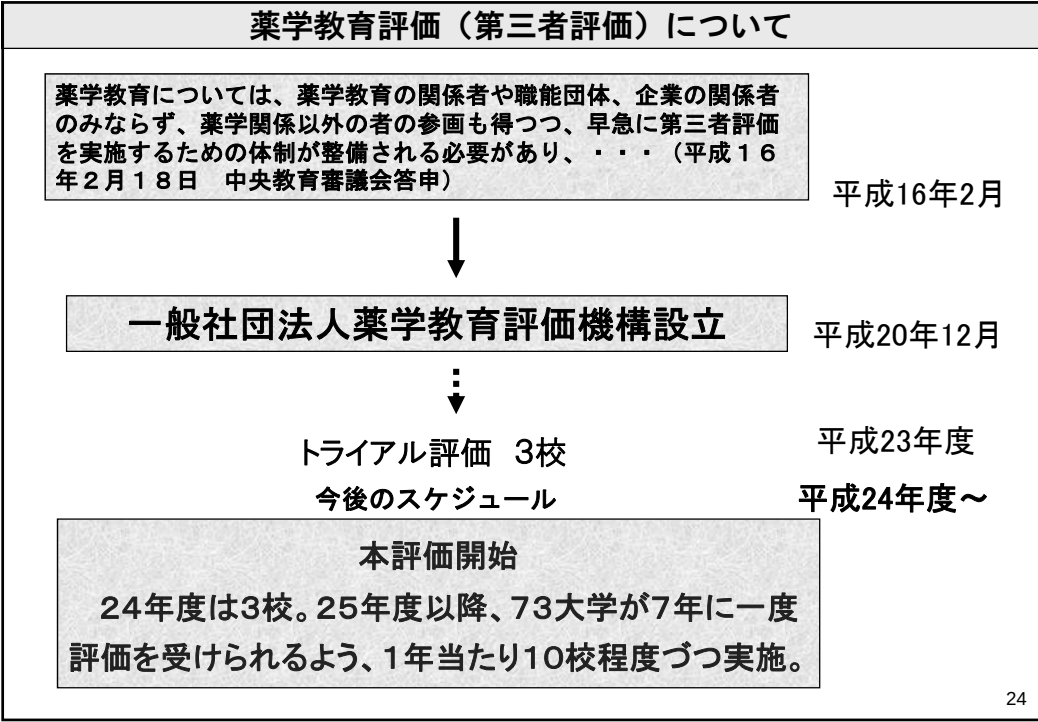
SBO
s
.....

.....

GIO

SBO
s
.....

23



2. 地域の医師確保対策2012

25



平成25年度の医学部入学定員増

1. これまでの経緯

- 医師の養成数については、昭和57年及び平成9年の閣議決定により、入学定員を7,625人まで抑制。
- 近年の医師不足に対応するため、平成20年度より入学定員を増員し、平成24年度までに8,991人まで増員(平成19年度比1,366人増)。

<内訳>

- ・ 平成20年度は、医師不足が深刻な10県、医師養成総数が少ない2県等で計168人の増
- ・ 平成21年度は、全都道府県で計693名の増(過去最大程度までの増員)
- ・ 平成22～24年度は、地域の医師確保等の観点から、計360名(H22)、77名(H23)、68名(H24)の増

2. 平成25年度の入学定員の増員の枠組み

○ 平成25年度については、22～24年度と同様の枠組みで、地域の医師確保等の観点から、緊急臨時的に次の枠組みの増を認める。

1. 地域医療への従事を条件とした奨学金、選抜枠の設定を行う大学の入学定員の増員
※自治医科大学の増員を含む（地域枠）

【25年度増員数：12大学、39人増】

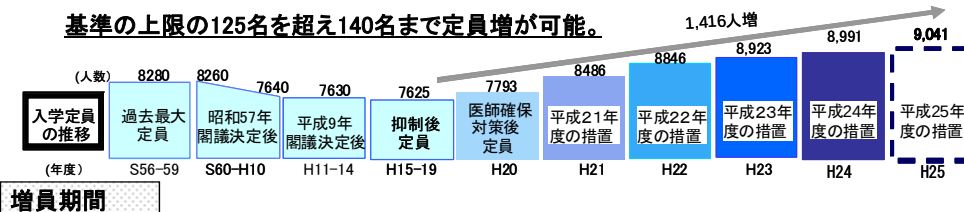
2. 複数大学の連携により研究医養成の拠点を形成する大学の入学定員の増員（研究医枠）

【25年度増員数：5大学、9人増】

3. 歯学部入学定員を減員する大学についての医学部入学定員の増員（歯学部振替枠）

【25年度増員数：1大学、2人増】

※ 平成25年度入学者から、十分な教育環境を整えることができる大学においては、現行基準の上限の125名を超え140名まで定員増が可能。



平成31年度までの間

（以降の取扱いは、その時点の医師養成数の将来見通しや定着状況を踏まえて判断）

28

平成25年度医学部入学定員 各大学の増員計画数

増員数：総計17大学50人

平成24年度定員総数：8,991人 → 平成25年度定員総数：9,041人
（平成19年度比：1,416人増加）

1. 地域枠 12大学39人

【国立大学】

弘前大学：2人（青森県）
東北大学：10人（宮城県）
筑波大学：2人（茨城県）
新潟大学：2人（新潟県）
信州大学：5人（長野県）
神戸大学：2人（兵庫県）
広島大学：3人（広島県）
香川大学：1人（香川県）

※ かつこ内は奨学金を負担する県

2. 研究医枠 5大学9人

【国立大学】

東京医科歯科大学：1人
千葉大学：2人

【公立大学】

福島県立医科大学：5人（福島県）

【私立大学】

岩手医科大学：3人（岩手県）
北里大学：2人（茨城県）
獨協医科大学：2人（栃木県）

3. 歯学部振替枠 1大学2人

【私立大学】

岩手医科大学：2人

【私立大学】

埼玉医科大学：1人
順天堂大学：3人
関西医科大学：2人

※岩手医科大学は地域枠、歯学部振替枠合計で5名増

29

3. 平成25年度 国公立大学関係予算

30

高度医療人材の養成と大学病院の機能強化

平成25年度予定額: 77億円(76億円)

注: () の数値は、前年度予算額

【先進的医療イノベーション人材養成事業】

高度な教育・研究・診療機能を有する大学・大学病院における高質で戦略的な人材養成及び拠点を形成する。

- 未来医療研究人材養成拠点形成事業(新規) 23億円(新規)
- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 21億円(21億円)

【大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業】

基礎医学、チーム医療等を担う優れた高度専門医療人(医師、看護師等)を養成するための教育体制の充実を図る。

- 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成 3億円(4億円)
- 専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業 1億円(1億円)
- 周産期医療に関わる専門的スタッフの養成 6億円(6億円)
- 看護師の人材養成システムの確立 2億円(3億円)
- チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立 1億円(1億円)

【大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用】

深刻な医師不足等による地域医療の崩壊を防ぐため、地域医療の最後の砦である大学病院の機能を強化する。

- 大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用 21億円(21億円)

※単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

31

先進的医療イノベーション人材養成事業	
	(平成24年度予算額:21億円) 平成25年度予定額:44億円 研究拠点形成費等補助金
背景・課題	○ 日本経済再生のため、医療関連分野におけるイノベーションの推進が求められている。また、超高齢社会への移行による疾病構造や人口動態の変化と、それに伴う医療ニーズの変化に対応するため、新たな医療提供システムの構築が求められている。 ○ がんは、我が国の死因第一位であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状から、「がん対策基本法」が制定され、手術、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他の医療従事者の育成が求められている。 ○ これらの我が国が抱える様々な医療課題を解決し、国民に提供する医療水準を向上させるためには、<u>大学における研究マインドを持った次世代医療人材の養成が必要である。</u>
対応・内容	【対応】 ○ 高度な教育・研究・診療機能を有する大学・大学病院における高質で戦略的な人材養成及び拠点を形成 【内容】 ○ 未来医療研究人材養成拠点形成事業(新規) 2,250,000千円 ◆ 地方自治体、公的研究機関、地域医療機関・医師会、他大学、民間企業等と連携の上、<u>地域・社会の将来の医療状況を見通した、長期的視野に立った人材養成システムを構築</u> (内訳) @112,500千円 × 20件 ○ <u>がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン</u> 2,100,000千円 ◆ 複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、<u>がん専門医療人養成のための拠点を構築</u> (内訳) @140,000千円 × 15件
政策目標	○ 我が国の医療水準の維持向上 ○ 大学の地域医療・社会への貢献による将来の医療不安等の解消
	32

先進的医療イノベーション人材養成事業	
	平成25年度予定額:44億円
課 題	対 応
我が国が抱える様々な医療課題を解決し、国民に提供する医療水準を向上させるためには、 <u>大学における研究マインドを持った次世代医療人材の養成が必要</u>	左記の課題に対応するためには、 <u>高度な教育・研究・診療機能を有する大学・大学病院における高質で戦略的な人材養成及び拠点の形成が必要</u>
我が国の喫緊の医療課題(先進医療、高齢者医療、がん医療)	
科学技術基本計画(H23.8.19閣議決定)(抄) ○我が国では世界で最も急速に高齢化が進行しており、今後ますます深刻となる医療、介護の問題について、 <u>個人の人生観や死生観を尊重しつつ、その解決の方策を見出すことが喫緊の課題</u> ○ <u>がん患者や高齢者の終末期における精神的、肉体的苦痛を取り除く緩和医療に関する研究を推進</u>	⇩ ◇未来医療研究人材養成拠点形成事業 平成25年度予定額:23億円(新規) ●メディカル・イノベーション人材の養成 ●リサーチマインドを持った総合診療医の養成
がん対策基本法(H18.6)(抄) <基本理念> ○ <u>がんに関する専門的、学際的又は総合的な研究を推進、がんの予防、診断、治療等に係る技術の向上</u> ○ <u>がん患者がその居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づく適切ながん医療を享受</u> ○ <u>本人の意向を十分尊重してがんの治療方法等が選択されるようがん医療を提供</u> <専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成> ○ <u>手術、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の養成</u>	◇がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 平成25年度予定額:21億円 ●がんの先端研究や高度医療を担う専門医療人の養成
	33

未来医療研究人材養成拠点形成事業

平成25年度予算額: 23億円(1.1億円×20件)

課題

- 日本経済再生のため、医療関連分野におけるイノベーションの推進が求められている。
- 超高齢社会への移行による疾病構造や人口動態の変化と、それに伴う医療ニーズの変化に対応するため、新たな医療提供システムの構築が求められている。

対応

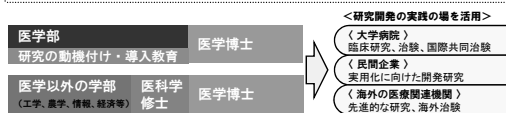
- 地方自治体、公的研究機関、地域医療機関・医師会、他大学、民間企業等と連携の上、地域・社会の将来の医療状況を見通した、長期的視野に立った人材養成システムを構築
- ※10年、20年先を見据えた人材養成

大学・大学病院

●メディカル・イノベーション人材の養成

◇大学病院における診療業務の増加等に伴い、日本の医学研究の国際競争力が低下

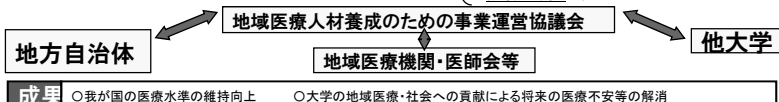
◇研究開発の実践の場(大学病院、公的研究機関、民間企業、海外機関等)の活用等による研究指導システムの構築により、新たな治療法や医薬品、医療機器の開発を担うグローバルなメディカル・イノベーション人材を養成



- ◇地域発のイノベーション創出(地域の医療特性を踏まえた研究等)を担う地域基盤型イノベーション人材の養成
- ◇海外武者修行等による国際的に活躍できるグローバル型イノベーション人材の養成
- ◇境界領域の革新的な研究を担う分野融合型イノベーション人材の養成 等

●人材養成を強力に推進するための指導体制強化

- ・若手医師や女性医師、地域医療人、外部機関の活用 等



成果 ○我が国の医療水準の維持向上 ○大学の地域医療・社会への貢献による将来の医療不安等の解消

34

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

平成25年度予算額: 21億円

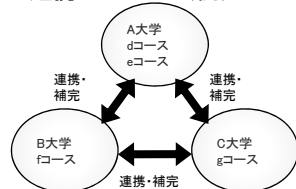
課題

- がんは、わが国の死因第一位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状から、「がん対策基本法」が制定(H19.4施行)。
- この基本法の中で、手術、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他の医療従事者の育成が求められている。

対応策

- ・本事業では、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための拠点を構築する。
- ※1 各大学は、下記の①～③のいずれかに該当するコースを開設。

<連携のイメージ(例)>



- ※2 コーディネーターを配置し、他大学・他学部・地域医療機関・製薬企業等との調整を行う。
- ※3 支援期間(5年間)終了後も、恒常的に事業を実施できる体制基盤を確立的に。

①がん研究者養成に重点を置くコース

- 将来、がんに関する新たな診断・治療法や看護法、医薬品・医療機器の開発研究等を担う、高度な研究能力を有するがん研究者の養成を主目的とするコース。
- 【取組例】海外の機関との国際連携教育、MD-Ph.Dコースによる学部・大学院一貫がん教育、製薬企業や理工系大学院等との連携教育、などを導入したコース

②がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース

- 従来とは異なる教育手法の導入等の教育改革により、がんに関する国際的な視野を持った指導者や臨床現場でのリーダーをはじめとした、優れたがん専門医療人の養成を主目的とするコース。
- 【取組例】多職種連携教育、初期研修と大学院の両立、連携大学との単位互換、全国規模のE-learning、などを導入したコース

③地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース

- 地域医療機関との連携等により、地域のがん医療の質向上や医師等の確保など、地域がん医療に貢献する優れたがん専門医療人の養成を主目的とするコース。
- 【取組例】医師等不足地域での研修、がん在宅医療研修、地域医療人の生涯教育、地域の休業中医師・看護師等の後援教育、地域に定着するための教育上の工夫、などを導入したコース

成果

- ・高度ながん研究、がん医療等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進

35

大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業

(平成24年度予算額: 25億円)
平成25年度予定額: 13億円
大学改革推進等補助金

背景・課題

- 基礎医学研究に進む医師が減少し、将来の我が国の医学教育・研究の質の低下が懸念。
- 日本の医学生の実習は諸外国に比べ、実習期間が短く、診療参加の割合が低い。
- 医師不足や医療の高度化を背景に、医療の効果的、効率的な提供を目的とするチーム医療の推進が医療全体の課題。

対応・内容

【対応】

- 基礎医学、チーム医療等を担う優れた高度専門医療人(医師、看護師等)を養成するための教育体制の充実を図る。

【内容】

○ 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成	324,000千円
◆ 医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成	@ 18,000千円 × 10件
◆ グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実	@ 9,540千円 × 10件
◆ 医学・歯学教育認証制度等の実施	(医) @ 32,400千円 × 1件、(歯) @ 16,200千円 × 1件
○ 専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業	78,078千円
◆ 高度な実践能力を備えた質の高い看護専門職の養成	@ 5,035千円 × 6件、@ 6,118千円 × 1件
◆ 実務実習指導薬剤師の育成を通じての臨床能力に優れた薬剤師の養成	@ 4,750千円 × 5件
◆ 看護系大学教員養成機能強化事業	@ 18,000千円 × 1件
○ 周産期医療に関わる専門的スタッフの養成	@ 30,780千円 × 18件 = 554,040千円
○ 看護師の人材養成システムの確立	@ 19,238千円 × 12件 = 230,850千円
○ チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立	@ 12,240千円 × 8件 = 97,920千円

政策目標

- 社会ニーズに対応した優れた専門医療人の養成
- 医療の安全確保や質の向上を図るための大学病院の体制強化
- 医療関連職種の活用促進・役割拡大